

## 地方独立行政法人山梨県立病院機構 第1回理事会 議事録

1 日 時 平成30年6月26日(火) 午後4時00分～午後4時50分

2 場 所 県立中央病院 2階 理事長室

3 出席者 理事長 小俣政男

理 事 神宮寺禎巳、宮田量治、内藤正浩

監 事 加藤隆博、柴山聡

(欠席者 なし)

(出席者 理事長・理事 計4名。今理事会は定足数を満たし成立した。)

4 会議次第

(1) 理事長あいさつ

(2) 議 事

はじめに)

○司 会

今回、宮田量治北病院長が新たに理事に就任された。また、知事任命により柴山聡弁護士が新たに監事に就任された。

議 事)

### 規程改正について

○議 長

初めに、規程改正についてについて説明願います。

○事務局

—規程改正について説明—

**資料1** 職員任用規程

多様な人材を確保することを目的に、資格免許職職員採用試験の受験資格の年齢要件を緩和するため、「職員任用規程」の一部改正を行う。

施行期日は平成30年6月26日からとする。

採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。

### 平成29年度決算について

○議 長

次に、平成29年度決算について説明願います。

○事務局

—平成29年度決算について説明—

資料2 法人化8年収支決算、資料3 財務諸表等により、平成29年度決算において経常利益（20億9,900万円）、純利益（17億3,400万円）ともに過去最高額を計上したことなど、概要説明を行った。

○議長

次に、各病院の稼働状況について説明願います。

○神宮寺理事

—平成29年度中央病院稼働額等の説明—

入院・外来稼働額は、高い水準で推移し、前年同月比較の累計で6億6,279万円増となった。入院収益稼働額はここ1年横ばいであったが、外来収益稼働額は長期的に右肩上がりとなっている。

平均在院日数は12.9日で昨年度より0.2日増えた。

新規入院患者数は、前年同月比較の累計で77人減となった。長期的には、新規入院患者数は横ばい、初診外来患者数はやや右肩下がりとなっている。

1日あたりの平均単価は、入院・外来とも長期的にはやや右肩上がりとなっている。

○宮田理事

—平成29年度北病院稼働額等の説明—

入院・外来稼働額は、前年同月比較の累計で4,455万円増となった。

入院収益稼働額が上昇傾向にあるが、急性期の病棟が増えたことや児童・思春期精神科入院医療管理加算を算定するようになったことが寄与していると思われる。

平均在院日数は70日代で推移しているが、全国トップレベルは概ね60日代である。

新規入院患者数は、前年同月比較の累計で12人減となった。昨年度初めて初診外来患者数が1,000人を超えたところであるが、特に20歳以下の若い患者が増えている。

○議長

平成29年度決算について、意見・質問等がありますか。

○加藤監事

財務諸表6ページの行政サービス実施コスト計算書について、もう少し詳しく伺いたい。

県民一人あたりコストの他県比較等を行ったことがあるか。

○事務局

行政サービス実施コスト計算書は、地方独立行政法人会計基準に基づき、損益計算書では反映されない県民（納税者）のコストを明確にし、実質的な負担コストを開示するために作成される計算書である。

他県状況との比較等は行っていない。

○議 長

医業収支比率や経常収支比率、繰入金比率などの指標については、当院と同規模・同程度の医療を提供する7府県の病院機構と比較検討を行っている。

当機構の繰入金比率は約14%で上位から3番目に位置しており、健全な状態にあると言える。

○議 長

その他何かありますか。よろしければ、承認ということによろしいか。

**採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。**

その他)

○司 会

最後に、次回理事会の日程について、お諮りしたい。

平成30年10月3日水曜日の16時からということによろしいか。

以上をもちまして、平成30年度第1回理事会を終了とする。